

学部授業「体育原論・スポーツ哲学」における  
アクティブ・ラーニングの授業実践：  
—現代スポーツの特徴を社会的な視点で深めることを主題として—

A report for teaching method of 'active learning' for the faculty development of the  
course of lecture in the philosophy of physical education and sport:  
With References to the social aspect of contemporary sport

榊 原 浩 晃

Hiroaki SAKAKIBARA

(福岡教育大学 保健体育講座)

(平成29年10月2日受理)

要 約

本稿の目的は学部授業「体育原論・スポーツ哲学」におけるアクティブ・ラーニングの授業実践の経過をたどり、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの成果を得ることを目指した授業改善を試み、その記録を留めることである。授業実践の主題として、「現代スポーツの特徴を社会的な視点で深めること」を主題として実施した。このことは、教科に関する専門的事項を取扱いながら、教科の指導法にも関連させ、教科教育と教科専門（体育原理）とを融合した実践研究の着想によっている。学部授業の教育実践に関する省察を行うとともに、中学校・高等学校における教科：保健体育の「体育理論」領域の指導法とその教材研究を深めることにもつなげたい。ここに、授業実践とその省察の意義がある。

キーワード：体育原論・スポーツ哲学, 教科に関する専門的事項, 教科の指導法, 体育理論, 教材作成

緒 言

2016年11月、教育職員免許法が改正され、教科専門と教科教育の科目区分が「教科及び教職に関する科目」に大括り化された。その後の改正趣旨説明や、省令準備の段階においても履修内容の検討と充実が謳われている<sup>1)</sup>。従来の教科専門科目の内容とシラバスの内容は、いわば「大学レベルの学問的・専門的内容」から授業構想され今日に至っているが、教職課程に新たに加える内容の例として、アクティブ・ラーニングの観点に立った授業改善が求められている。大学での授業担当者の立場からは、専門的内容を15回の授業回数で担保しながら、授業方法として、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れなくてはならない。旧教科専門担当科目の教員はどのように授業改善に取り組めばよいのであろうか？つまり、アクティブ・ラーニングをどのように授業に取り組んだらよいのかは、FDの喫緊の課題であろうと思われる。一言で表現するなら、「大学レベルの学問的・専門的内容」と「教科の指導法」とを一体的に学ぶことができるように授業改善しなければならないということであろう。そこで、アクティブ・ランニングの観点と授業演習形態を盛り込みながら、当該科目「体育原論・スポーツ哲学」

における授業実践とそこでの課題を明らかにすることをこの教育実践報告の目的とする。

1. 大学でのアクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの観点に基づいた授業とは、高等教育機関においても定義づけや授業方法の開発が進んでいることは論をまたない。学生にとってみれば、「読解、作文、発表、討論、問題解決、創造などの学生の活動への関与があり、それらで生じる認知プロセスの外化を伴っている授業」<sup>2)</sup>と定義づけられ、さらに以下の3点がまず要点として列挙されるであろう。

- ・学生が自ら計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく過程を実現する「主体的な学び」
- ・他者との協働や外界との相互作用を通じて考えを発展させる「対話的な学び」
- ・学んだ知識を活かして問題発見・解決や創造を行う「深い学び」<sup>3)</sup>

2. 教科に関する専門的事項

省令においては、「教科専門科目」が「教科に関する専門的事項」と名称変更がなされ、教科の指導法に関する内容と関連させることが求められている。「体

育原論・スポーツ哲学」は、教育職員免許法施行規則の別表により、「体育原理」の科目として指定され、科目名称を読み替えて本学では開講されている。科目名称に含まれる「体育原論」は、これまで継続維持してきた科目名称であり、体育（広義の意味としての身体教育）に関して、その本質を把握すること、及びその研究方法を授業内容として想定してきている。前任者とその前任者の教官（当時）の科目名称への愛着があり、古代ギリシャ哲学と歴史に造詣深い経緯があったことは事実である。一方で、科目名称の一部に「スポーツ哲学」の文言を挿入する含意は、近年の専門科学的内容を踏まえて、スポーツの哲学的探究に資することがそのねらいにあるためである。授業初回のオリエンテーション時には、体育（身体教育）の意味の根源を正すこと、及びスポーツの哲学的考察を行うという科目の趣旨を伝えている。その際、学生にわかりやすくするには、哲学の意味を平易に解説せねばならない。一言で、哲学は「愛知」である。つまり、「知識を大切にすること」であると説いている。このことは修得した知識が実生活に生かされなくてはならないことと矛盾しない。当該授業科目は、知識を獲得し、理解を深めることを授業の目標としてきている。その方法論は、哲学でいうところの外延と内包の関係を理解することにある。今日では、スポーツの意味内容は、幅広くなり外延が拡大しつつあり、その中でも、元々の意味内容を堅持しつつ内容を掘り下げなくてはならない。専門的学問内容をこれまでより広く、そして、より深く学ぶことを想定してきているといえる。シラバスにみる15回の授業分の授業内容は、体育やスポーツの概念的理解をはじめとしてそれに付随する運動、身体、遊びの各概念をさらに掘り下げて解説し、さらに現代において体育授業やスポーツに影響を与えている問題を毎回の授業の内容としてきた。1回90分の授業回数15回では時間不足が生じていたほどである。

### 3. FDとしてのシラバスの改善（授業にどのようにアクティブ・ラーニングを取り入れるのか？）

体育・スポーツの概念的内容は、授業内容として不可欠である。つまり、概念の理解という思考の形式のあり方はまず学ばなければならないからである。したがって、シラバスの授業目標では、「体育原理（あるいはスポーツ哲学）の観点から、現代社会の体育とスポーツのあり方を学ぶ。そのために、体育・スポーツ・運動・遊び・技術（技能）などの用語概念とその意味や内容の違いをまず解説する。」とした。このことに新旧の変更はない。後段の「スポーツの理論や実践の今日的状況を人文・社会科学的な立場から考察するために、現代スポーツの特徴をアクティブ・ラーニングによって、知識をまとめる方法や深く学ぶ方法を身につける」ことが今回の授業改善の試みである。そして、「体育やスポーツの概念的理解と『スポーツの知』の

総合化をはかる」ことを授業の目標に掲げることとした。

授業でこれまで取り扱ってきた内容を担保し、新たにアクティブ・ラーニングで能動的学び、対話的な学び、そして、深い学びに取り組むことをねらいとした。具体的には、現代スポーツの特徴を説明するために多角的な視点があることを学ばせることとした。授業初回から5回までは、体育・スポーツの概念の内容構成であり、これまでと変更はない。6回目から15回目にアクティブ・ラーニングを取り入れている。毎回の授業では、講義形式で体育・スポーツの周辺領域の知識は取り扱うこととするが、「現代のスポーツを社会的な観点で深めるようにするため」のアクティブ・ラーニングを組み込んだことになる（「表1. アクティブ・ラーニングを取り入れた教科に関する専門的事項（『体育原論・スポーツ哲学』シラバス）の改善」）。

### 4. アクティブ・ラーニングによる「主体的、対話的、深い学び」の方法

授業回数15回のうち、10回にとりいれたアクティブ・ラーニングは、第1回目～第5回目を1つのサイクル、第6回目～第10回目を次のサイクルとし、合計10回の授業回数を想定して実施した。

#### (1) 各サイクルの初回

①各サイクルの初回の説明…【アクティブ・ラーニング導入と進め方】そのねらい「現代スポーツの特徴を社会的な観点から深め、知識の総合化をはかる」<sup>4)</sup> ことと題し、学習の進め方を解説する。グループ編成は、受講学生の任意とするが、1グループの人数は、4名～5名程度とする。グループ編成と役割分担：調べ学習の内容や、その列挙などの役割を想定し決めておく（グループのリーダーをスモール・ティーチャー<sup>5)</sup>として、グループの学習を方向づけたり、まとめの責任者となる学生を選出する）。

②学びの対象の確認…5グループを編成し、1グループが2項目の学びの対象〔学習の対象〕を選択する。合計で10項目の学びの対象を数えることとなる。ただし、アクティブ・ラーニングの「主題」は、「現代スポーツの特徴を社会的な観点で深めること」であり、グループの「課題」とは区別する。（課題については後述。）

③【アクティブ・ラーニング1】及び【アクティブ・ラーニング2】の学習計画は、以下である。

【アクティブ・ラーニング1】の学習計画

グループA：〔スポーツと政治〕

グループB：〔スポーツとビジネス〕

グループC：〔スポーツと環境〕

グループD：〔スポーツとナショナリズム〕

グループE：〔スポーツと宗教〕

【アクティブ・ラーニング2】の学習計画

グループA：〔スポーツと法・行政〕

表1 アクティブ・ラーニングをとり入れた教科に関する専門的事項（「体育原論・スポーツ哲学」シラバス）の改善

	旧シラバス（2017年度以前）	新シラバス（2017年度）
授業目標	体育原理（あるいはスポーツ哲学）の観点から、現代社会の体育とスポーツのあり方を学ぶ。そのために、体育・スポーツ・運動・遊び・技術（技能）などの用語概念とその意味や内容の違いを解説する。さらに、体育授業やスポーツ実践の今日的状況を人文科学的な立場から考察し、スポーツの理論的・哲学的背景にあたる事柄を学ぶ。	体育原理（あるいはスポーツ哲学）の観点から、現代社会の体育とスポーツのあり方を学ぶ。そのために、体育・スポーツ・運動・遊び・技術（技能）などの用語概念とその意味や内容の違いをまず解説する。さらに、 <b>スポーツの理論や実践の今日的状況を人文・社会科学的な立場から考察するために、現代スポーツの特徴をアクティブ・ラーニングによって、知識をまとめる方法や深く学ぶ方法を身につける。</b>
授業計画	1 「スポーツ哲学」と「体育原論」の学問的位置づけ	1 「スポーツ哲学」と「体育原論」の学問的位置づけ…どのように学習していくか（オリエンテーション）
	2 スポーツの概念	2 スポーツの概念
	3 体育の概念、体育とは何か	3 体育の概念及び体育の理念
	4 運動の概念と運動技術の考え方	4 身体と心身観—身体からみた体育の可能性—
	5 生涯スポーツと国際的なスポーツに関する憲章	5 プレイ（play）とは何か、体育・スポーツにおける競争
	6 スポーツと賭及びスポーツマンシップ	6 生涯スポーツと国際的なスポーツに関する憲章 【アクティブ・ラーニング1】の導入
	7 遊び（プレイ）理論とスポーツ的観点からの重要性	7 技術と技能、技術指導と指導者 【アクティブ・ラーニング1】のグループでの学習第1回目
	8 男女平等と体育・スポーツ	8 スポーツとジェンダー 【アクティブ・ラーニング1】のグループでの学習第2回目
	9 アマチュアリズムとスポーツ	9 アマチュアリズムとスポーツ 【アクティブ・ラーニング1】のプレゼンテーション準備
	10 スポーツと人権	10 スポーツ人権 【アクティブ・ラーニング1】プレゼンテーションとグループでの学習の省察
	11 オリンピックの歴史	11 スポーツマンシップとフェアプレー 【アクティブ・ラーニング2】の導入
	12 オリンピズムとオリンピック・ムーブメン	12 オリンピック・パラリンピックの歴史、オリンピック・ムーブメント 【アクティブ・ラーニング2】のグループでの学習第1回目
	13 スポーツ倫理とドーピング問題	13 スポーツ倫理とドーピング問題 【アクティブ・ラーニング2】のグループでの学習第2回目
	14 スポーツと暴力（指導者の体罰問題と関連づけて）	14 スポーツと暴力（指導者の体罰問題と関連づけて） 【アクティブ・ラーニング2】のプレゼンテーション準備
	15 体育原論・スポーツ哲学の総括	15 アクティブラーニング2の総括と授業全体の総括 【アクティブ・ラーニング2】プレゼンテーションとグループ再編成による学びの総合化
成績評価	成績評価は、受講態度・授業へ臨む積極的姿勢・態度（15%）、授業時間外の学習（20%）、小テスト（20%）及び試験（定期試験）（45%）による。なお、詳細については担当教員が授業初回時に具体的に説明する。	成績評価は、受講態度・授業へ臨む積極的姿勢・態度（15%）、授業時間外の学習（20%）、小テスト（20%）及びレポート（45%）による。なお、詳細については担当教員が授業初回時に具体的に説明する。
授業時間外の学習の時間	この授業科目の単位を修得するため、授業とは別に1週間に180分程度の課題をホームワークとすること。課題の内容は毎回の授業で指示する。	この授業科目の単位を修得するため、授業とは別に、1週間に180分程度の課題をホームワークとすること。課題の内容はアクティブ・ラーニングの進行にあわせて、グループで検討する。
テキスト	特に指定しない。	友添秀則・岡出美則編著 『教養としての体育原理—現代の体育・スポーツを考えるために—』（新版）、大修館書店、2016年

グループB：〔スポーツとメディア〕

グループC：〔スポーツとコミュニティ〕

グループD：〔スポーツとグローバリゼーション<sup>6)</sup>〕

グループE：〔スポーツとルール<sup>7)</sup>〕

④【アクティブ・ラーニング1】の導入…グループで

のアクティブ・ラーニングの進め方を確認する。〔グループ内での対話〕

I テキスト<sup>8)</sup>をグループで輪読して、〔学習の対象〕の概要を把握する。〔学習の対象〕の範囲を内容について、グループ内での共通認識を得ようとするため



ある。

Ⅱ 学習を深める「課題」を検討する。

ここまでの初回の内容である。ⅠとⅡを区別することが必要となる。深めるべき〔学習の対象〕について、授業時間外の学習の時間を利用して、下調べする。しかし、アクティブ・ラーニングの課題は何か。〔学習の対象〕把握し、それを求めるのみではアクティブ・ラーニングにたどりつかない。「○○○ことを調べなさい」とか「○○○のことをまとめなさい」ではなく、「〔学習の対象〕の範囲を内容について、他者が理解できるよう説明の順序とエビデンスを用意し、平易に説明しなさい」ということをアクティブ・ラーニングの課題とする。グループで取り組む〔授業時間外学習の時間①〕において、課題の追究がはじまる。授業時間外学習の時間がないと、アクティブ・ラーニングは進行しない。

(2) 2回目

2回目の時間は【アクティブ・ラーニング1】のグループでの学習第1回目として、グループでの学習を進める〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕である。

Ⅰ グループ内で、下調べしてきたことを報告する。新たに理解したことは何か、質問や意見交換を行い、スモール・ティーチャーが本時の学習のまとめをする。

Ⅱ 他者が理解できるよう、平易に解説するという学習課題の検討を行う。深める課題について、授業時間外の学習の時間を利用して下調べする。〔授業時間外学習の時間②〕

(3) 3回目

【アクティブ・ラーニング1】のグループでの学習第2回目として、グループでの学習を進める。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕

Ⅰ グループ内で、下調べしてきたことを報告するが、(2) 2回目の時間からの学習の進展や検討を要する事項について、質問や意見交換を行い、スモール・ティーチャーが本時の学習のまとめをする。

Ⅱ 他者が理解できるよう、平易に解説するという学習課題について、主体的に取り組んでいるかが重要である。アクティブ・ランニングの学習の進展を記録に留める。〔授業時間外学習の時間③〕

(4) 4回目

【アクティブ・ラーニング1】のプレゼンテーション(口頭発表)準備として、グループでの学習の進め、プレゼンテーションの仕方を討議する。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕

Ⅰ グループ内での共通の学びの成果を確認する。要点は何か、質問や意見交換を行い、スモール・ティーチャーが本時の学習のまとめをする。

Ⅱ プレゼンテーションの行い方やその内容を検討する。プレゼンテーション時のスライドや配布資料について授業時間外を利用して作成する。〔授業時間外学習の時間④〕

(5) 全体での【プレゼンテーション(口頭発表)】とグループでの省察。A～Eの5グループ(1グループ発表5分、質疑5分)のプレゼンテーションを行う。

【アクティブ・ラーニング1】のプレゼンテーションとグループでの省察として、グループ学習の省察を行う。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕〔深い学び〕

Ⅰ グループ内で、自己のグループの学びやプレゼンテーションの成果を確認する。他者のグループのプレゼンテーションから学んだことをふりかえる。要点は何か、質問や意見交換を行い、スモール・ティーチャーが本時の学習のまとめをする。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕プレゼンテーション後の省察の内容を討議して、レポートを作成する。〔授業時間外学習の時間⑤〕

(6) 2回目のサイクルと最終まとめ仕方

初回～4回は、2回目のサイクルも同様である。しかし、最終まとめの時間は、ポスターのプレゼンテーションとし、【アクティブ・ラーニング2】のプレゼンテーションとグループ再編成による学びの総合化がはかられる。全体での【プレゼンテーション(ポスター発表)】A～Eの5グループのプレゼンテーションを行う。ポスター発表の場でグループの構成員を超えて他者と意見交換し、自己グループと他者グループを交えて、学習の省察を行う。〔新たなグループでの対話〕〔教え合い・学び合い〕〔深い学び〕

ここでは、Ⅰ. グループを再編成(ジグソー方式<sup>9)</sup>の学習内容の構成)し、現代スポーツの特徴を多角的な視点で把握するように、ディスカッションし、深い学びの成果を確認する。

Ⅱ. 最終レポートの作成への手順や再編成されたグループ内での役割分担を決定し、学んだことをふりかえる。【アクティブ・ラーニング1】及び【アクティブ・ラーニング2】の学習成果を盛り込んで、レポートを作成する。〔授業時間外の学習の時間⑩〕

**最終レポートの課題：**

「体育原論・スポーツ哲学期末レポート課題

我々は、授業時や授業時間外の時間におけるアクティブ・ラーニングによって、グループごとに現代スポーツの特徴についてそれぞれのテーマごとに学びを深めてきた。A～Eの各グループの課題を総括して、アクティブ・ラーニングの成果をまとめるには、各グループで明らかにされた内容について、相互に関連づけ、現代スポーツの特徴を説明しなければならない。そこで、以下のようなアクティブ・ラーニングの方法(レポート作成の方法)によって、現代スポーツの特徴を説明する文章を作成しなさい。

**レポート作成の方法**

(1) 文章の文字数は2,500字を超えること。

(2) A～Eの構成員とは異なる新たなグループを編成すること。

- (3) 新たなグループは2名以上6名以内のグループで、課題レポートに取り組むこと。  
2名の場合も2,500字の叙述文字数を要する。
- (4) A～Eのグループを再構成して、レポート作成のための新たなグループを編成することが望ましい。スモール・ティーチャーが中心となり、A～Eのグループの構成員に呼びかけ、編成する方法もある。数名の構成員や単独の構成員が新たなグループへの加入を求める場合もある。
- (5) レポートに作成に取り組む標準的な時間は、1週間に180分を2回、計360分とする。
- (6) 文章には、段落を設け、段落ごとに、執筆者の氏名を（括弧）で明記すること。誰がどの部分を執筆したかが把握できるようにすること。緒言やまとめの文章を全員や複数名で執筆した場合は（全員）（〇〇、△△）というように複数の氏名を入れること。
- (7) スポーツとA～Eのグループで課題として追究した以下の10個の用語のうち、4個以上の用語を用いて文章で総括すること。

〔宗教 政治 法・行政 環境 グローバリゼーション ビジネス ナショナリズム メディア ルール コミュニティ〕

これらのアクティブ・ラーニングの概要は、「表2. 現代スポーツの特徴をアクティブ・ラーニングによって深める—その学び方と深め方—」に示した。

## 5. アクティブ・ラーニングの「課題」設定の仕方と実施上の留意点

90分間の授業時間のうち、40分程度が教員の講義に充当する時間であり、残りが授業時間内におけるアクティブ・ラーニング実時間となる。ただし、「授業時間外の学習の時間」を活用することが不可欠であり、明確に時間外の学習が習慣づけられる。ここにアクティブ・ラーニングをとり入れるメリットがある。グループで共通に深めることと分担して調べることを区分すること、及び学習の進め方（調べ方）の打ち合わせと深める学習の実時間を峻別することが不可欠であろう。個人がまとめとしてグループ内やクラスでプレゼンテーションする。その際の質疑を通して、批判し、改善を求めたり、意見を述べて発表者が考え直したりする機会を設ける。学習の進み具合や問題点、学び合いや教え合いのポートフォリオを毎回の学習で記録できるようにすることを試案しなければならない。つまり。学習の順序性をふまえたアクティブ・ラーニング用のツールの開発が必要となる。例として、以下のことが挙げられる。

- ・書き出すツール
- ・カテゴリーに分類するツール
- ・要点を記述するツール

- ・プレゼンテーションを準備するツール
- ・要点のまとめをするためのツール
- ・スモール・ティーチャーが用いるツール
- ・個々の学習者が用いるツール

学習の経過のデータ入力、プレゼンテーション時のスライドのデータ入力と連動するようなツールの開発は、アクティブ・ラーニングの実時間の学び合いや教え合いの時間や増加につながるであろう。

グループでの学習の深め方として、スモール・ティーチャーの活用があげられる。スモール・ティーチャーは何を行うのか？構成員の役割と学び合い、教え合いのリーダーとなり、グループ内では、リーダーシップをとることができる存在である。毎回のアクティブ・ラーニングによって、以下のことが成り立つように、教員が介入し、スモール・ティーチャーに助言する場合もあり得る。

- ・学習の成果と省察
- ・問題関心の深化（統合と深化）
- ・複数課題の共有と教え合い
- ・ジグソー方式による学習集団の再編成
- ・授業で学んだ知識の総合的理解
- ・総括するレポートの合同作成
- ・学んだ成果が、実社会に役立つものとなっているか（授業で学んだことが、中学校あるいは高等学校の授業時の教材作成に生かされるものになっているか？）
- ・これらの内容で学んだことが、複数課題を追究することで、どのように統合できるか？

体育理論授業時に役立てられるかが最も重要なことである。つまり、中学生や高校生に、どの単元のどのような内容の授業やその教材作成に、活用できるかである。〔学習の対象〕の範囲を内容について、他者が理解できるよう説明の順序とエビデンスを用意し、平易に説明しなさい。という趣旨は、スポーツの重要性を理解しつつも、どのように説明するか、エビデンスは何を用いるか、説明の順序はどのように構想するか？最初の発問は何か？発展的な問題提起ができるか？解決できる課題か、複数の課題を収斂して、現在の到達点を明示できるか？さらに、問題の真相にせまるには、どのような手順や方法が考えられるか？ということなどへの応用可能性である（「図1. 現代におけるスポーツの特徴（社会的な視点）、及び中学校・高等学校の授業「体育理論」の教材作成への応用可能性」）。

## まとめにかえて

本授業実践で取り組んだのは、(1)～(3)であった。

- (1) 自己の（グループの）学習の深め方、学び合い

表2 現代スポーツの特徴をアクティブ・ラーニングによって深める—その学び方と深め方—

	<p>【アクティブ・ラーニング導入と進め方、そのねらいの解説】：現代スポーツの特徴を社会的な観点から深め、知識の総合化をはかる。</p> <p>(1) グループ編成と役割分担（スモール・ティーチャー）の選出とグループ構成員の役割分担の確認</p> <p>(2) 学びの対象の確認 5グループを編成し、1グループが2項目の学びの対象を選択する。合計で10項目の学びの対象を数える。</p>	
アクティブ・ラーニング 第1回目	<p>【アクティブ・ラーニング1】と学習計画</p> <p>〔グループA：〕 スポーツと政治</p> <p>〔グループB：〕 スポーツとビジネス</p> <p>〔グループC：〕 スポーツと環境</p> <p>〔グループD：〕 スポーツとナショナリズム</p> <p>〔グループE：〕 スポーツと宗教</p>	<p>【アクティブ・ラーニング2】と学習計画</p> <p>〔グループA：〕 スポーツと法・行政</p> <p>〔グループB：〕 スポーツとメディア</p> <p>〔グループC：〕 スポーツとコミュニティ</p> <p>〔グループD：〕 スポーツとグローバル化</p> <p>〔グループE：〕 スポーツとルール</p>
	<p>【アクティブ・ラーニング1】の導入…学習の進め方確認として、グループ学習の進め方を確認する。〔グループ内での対話〕</p> <p>I テキストを用いて、概要を把握する。グループ内での共通認識を得ようとする。</p> <p>II 学習を深める課題を検討する。深める課題を授業時間外を利用して、下調べする。〔授業時間外学習の時間①〕</p>	
アクティブ・ラーニング 第2回目	<p>【アクティブ・ラーニング1】のグループでの学習第1回目として、グループ学習を進める。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕</p> <p>I グループ内で、下調べしてきたことを報告する。新たに理解したことは何か、質問や意見交換を行い、スモール・ティーチャーが本時の学習のまとめをする。</p> <p>II さらに学習課題を検討する。深める課題を授業時間外を利用して、下調べする。〔授業時間外学習の時間②〕</p>	
アクティブ・ラーニング 第3回目	<p>【アクティブ・ラーニング1】のグループでの学習第2回目として、グループ学習を進める。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕</p> <p>I グループ内で、下調べしてきたことを報告する。新たに理解したことは何か、質問や意見交換を行い、STが本時の学習のまとめをする。</p> <p>II さらに学習課題を検討する。深める課題を授業時間外を利用して、下調べする。〔授業時間外学習の時間③〕</p>	
アクティブ・ラーニング 第4回目	<p>【アクティブ・ラーニング1】のプレゼンテーション（口頭発表）準備として、グループ学習の進め、プレゼンテーションの仕方を討議する。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕</p> <p>I グループ内での共通の学びの成果を確認する。要点は何か、質問や意見交換を行い、スモール・ティーチャーが本時の学習のまとめをする。</p> <p>II プレゼンテーションの行い方やその内容を検討する。プレゼンテーションの資料を授業時間外を利用して作成する。〔授業時間外学習の時間④〕</p>	
アクティブ・ラーニング 第5回目	<p>全体での【プレゼンテーション（口頭発表）】とグループでの省察。A～Eの5グループ（1グループ 発表5分、質疑5分）のプレゼンテーションを行う。</p> <p>【アクティブ・ラーニング1】のプレゼンテーションとグループでの省察として、グループ学習の省察を行う。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕〔深い学び〕</p> <p>I グループ内で、自己のグループの学びやプレゼンテーションの成果を確認する。他者のグループのプレゼンテーションから学んだことをふりかえる。要点は何か、質問や意見交換を行い、スモール・ティーチャーが本時の学習のまとめをする。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕プレゼンテーション後の省察の内容を討議して、レポートを作成する。〔授業時間外学習の時間⑤〕</p>	
アクティブ・ラーニング 第6回目	<p>【アクティブ・ラーニング2】の導入…学習の進め方確認として、グループでの学習の進め方を確認する。〔グループ内での対話〕</p> <p>I テキストを用いて、概要を把握する。グループ内での共通認識を得ようとする。</p> <p>II 学習を深める課題を検討する。深める課題を授業時間外を利用して、下調べする。〔授業時間外学習の時間⑥〕</p>	
アクティブ・ラーニング 第7回目	<p>【アクティブ・ラーニング2】のグループでの学習第1回目として、グループ学習を進める。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕</p> <p>I グループ内で、下調べしてきたことを報告する。新たに理解したことは何か、質問や意見交換を行い、STが本時の学習のまとめをする。</p> <p>II さらに学習課題を検討する。深める課題を授業時間外を利用して、下調べする。〔授業時間外学習の時間⑦〕</p>	
アクティブ・ラーニング 第8回目	<p>【アクティブ・ラーニング2】のグループ学習第2回目として、グループ学習を進める。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕</p> <p>I グループ内で、下調べしてきたことを報告する。新たに理解したことは何か、質問や意見交換を行い、STが本時の学習のまとめをする。</p> <p>II さらに学習課題を検討する。深める課題を授業時間外を利用して、下調べする。〔授業時間外学習の時間⑧〕</p>	
アクティブ・ラーニング 第9回目	<p>【アクティブ・ラーニング2】のプレゼンテーション（ポスター発表）準備として、グループ学習を進め、プレゼンテーションの仕方を討議する。〔グループ内での対話〕〔教え合い・学び合い〕</p> <p>I グループ内での共通の学びの成果を確認する。要点は何か、質問や意見交換を行い、スモール・ティーチャーが本時の学習のまとめをする。</p> <p>II プレゼンテーションの行い方やその内容を検討する。プレゼンテーションの資料を授業時間外を利用して作成する。〔授業時間外学習の時間⑨〕</p>	
アクティブ・ラーニング 第10回目	<p>【アクティブ・ラーニング2】のプレゼンテーションとグループ再編成による学びの総合化</p> <p>全体での【プレゼンテーション（ポスター発表）】A～Eの5グループのプレゼンテーションを行う。ポスター発表の場で、意見交換し、自己グループと他者グループを交えて、学習の省察を行う。〔新たなグループでの対話〕〔教え合い・学び合い〕〔深い学び〕</p> <p>I グループを再編成（ジグソー方式の学習内容の構成）し、現代スポーツの特徴を多角的な視点で把握するように、ディスカッションし、深い学びの成果を確認する。</p> <p>II 最終レポートの作成への手順や再編成されたグループ内での役割分担を決定し、学んだことをふりかえる。【アクティブ・ラーニング1】及び【アクティブ・ラーニング2】の学習成果を盛り込んで、レポートを作成する。〔授業時間外学習の時間⑩〕</p>	



<b>運動やスポーツの多様性</b>	中学校単元 第1学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 運動やスポーツの必要性和楽しさ</li> <li>イ 運動やスポーツの多様なかわり方</li> <li>ウ 運動やスポーツの学び方</li> </ul>	
<b>運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全</b>	中学校単元 第2学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア …</li> <li>イ 運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果</li> <li>ウ …</li> </ul>	
<b>文化としてのスポーツの意義</b>	中学校単元 第3学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 現代生活におけるスポーツの文化的意義</li> <li>イ 国際的なスポーツ大会などが果たす文化的意義や役割</li> <li>ウ 人々を結び付けるスポーツの文化的な動き</li> </ul>	
<b>スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴</b>	高等学校 単元 第1学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア スポーツの歴史的發展と変容</li> <li>イ スポーツ技術、戦術、ルールの変化</li> <li>ウ オリンピックムーブメントとドーピング</li> <li>エ スポーツの経済的効果とスポーツ産業</li> </ul>	
<b>運動やスポーツの効果的な学習の仕方</b>	高等学校校単元 第2学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>…</li> </ul>	
<b>豊かなスポーツライフの設計の仕方</b>	高等学校単元 第3学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方</li> <li>イ ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方</li> <li>ウ スポーツ振興のための施策と諸条件</li> <li>エ スポーツと環境</li> </ul>	



図1 現代におけるスポーツの特徴（社会的視点）、及び中学校・高等学校の授業「体育理論」の教材作成への応用可能性

(2) 他者（他のグループの）の成果から学ぶこと

(3) (1)及び(2)の統合化

アクティブ・ラーニングで学んだ知識をいかに活用できるであろうか、授業最終回のまとめでは以下のことにふれている。

- ・現代社会の中でのスポーツが果たしている役割に気づいているか？
- ・スポーツの人文・社会科学的な認識が深まったか？
- ・現代社会の中で、我々がスポーツにかかわることが、現在も将来においても意義があり、我々の生活にも関係していることが理解できたか？

これらは、「教科に関する専門的事項」の内容である。それらとともに、アクティブ・ラーニングで深めたことは何であったか、その「課題」の達成を述べることは、本稿の範囲を超えているが要点を列挙して省察としたい。

- ・説明の仕方によって、スポーツと個別の問題（テーマ）が相互に結び付けられ、関連や相互関係が理解され、スポーツの知の総合化がはかられたか？それがどの程度、達成できたか？
- ・知識の量的拡大
- ・統合化による知識の整理

・知識の深め方

・学び合いによる、学びの深さの実感と認識

・知識の広さと深さ

・実社会に生かせる知識の活用

まとめとして、授業実践を振り返るとき、アクティブ・ラーニングで取り上げるべき課題として、以下の3点を構想したい。

- (1) 〔現代におけるスポーツの特徴（社会的視点）について、中学生や高校生にどのようなエビデンスを用いて、どのような順序で説明すればよいかを考えなさい。〕
- (2) 〔中学生には、身近な生活空間や日常から、生育史など個人とスポーツのかかわり合いの視点から運動やスポーツの多様性を説明しなさい。その際、現代におけるスポーツの特徴（社会的視点）からアクティブ・ラーニングによって学んだことがどのように活用できるか、考えなさい。〕
- (3) 〔高校生には、現代社会におけるスポーツに関して、批判的な思考もふまえながら、社会との関わりに視点を向けて、スポーツの価値を説明しなさい。現代におけるスポーツの特徴（社会的視点）からアクティブ・ラーニングによって学んだことがどのように活用できるか、考えなさい。その際、複合的な観点<sup>10)</sup>をふまえて、説明しなさい。〕

それらは、今後の授業実践の際のアクティブ・ラーニングにおける各グループの共通の課題として設定されるべきであろう。

#### 註及び引用・参考文献

- 1) 文部科学省初等中等教育局教職員課, 「教育職員免許法・同施行規則の改正及び教職課程コアカリキュラムについて」, 2017年7月24日, p.3.
- 2) 大分大学高等教育開発センター, 「アクティブ・ラーニングに関する参考資料」, Ver.1.05. 平成29年3月6日, p.1.
- 3) 同上
- 4) 現代スポーツの特徴: 「スポーツの知の統合化」と主題を設定する。体育理論では, 「中学校では個人としてのスポーツの意義を中心に, 高等学校では批判的思考を踏まえつつ, 社会とのかかわりに視点を向けて, スポーツの価値を学習するようスパイラルな内容構成となって」いるという。佐藤 豊・友添秀則『楽しい体育理論の授業をつくらう』大修館書店, 2011年, p.20.
- 5) スモール・ティーチャーとは, 教え合い・学び合いの学習を進めていく際の教師役となる児童・生徒を指している。教育実践の報告等では, スモール・ティーチャーやSTの呼称で記述されることがある。下野六太, 「子どもの自尊感情を高め, 豊かな人間関係を目指す体育の実践記録」, 第32回東書教育賞受賞者／論文—東書Eネット, 東京書籍, 2017年, pp.38-50.
- 6) インターナショナリズムとグローバリズムは, どのように違うかの理解が必要となる。
- 7) スポーツの競技に於ける競技規則とルールの違いを理解する必要がある。社会における規範, その観点からフェアプレーの精神やエートスともかわる。
- 8) 友添秀則・岡出美則『教養としての体育原理—現代の体育・スポーツを考えるために—』(新版), 大修館書店, 2016年
- 9) ジグソー法とは, 1971年に米国のElliot Aronsonが考案したグループ学習の方法である。ホームグループ(ジグソーグループ)とエクスパートグループの2種類のグループを構成してグループ学習を進め, グループを再編成したりしてグループ内で総合して学習を進めていく方法をいう。友野清文, 「ジグソー法の背景と思想—学校文化の変容のために—」, 『学苑 総合教育センター・国際学科特集』, No.895, 昭和女子大学, 2015年, p.2.
- 10) ここでいう複合的な観点とは, スポーツと宗教, スポーツと政治, スポーツと法・行政, スポーツとビジネスのように, スポーツと個別の視点で考察すると共に, それらを総合して, 個別の視点でも相互に関連し合っており, 現代社会の中でのスポーツの観点は総合的であるということである。